

《ニュルンベルクのマイスタージンガー》 あらすじ

ドイツのニュルンベルクという町の教会で、若い騎士のヴァルターは、うつくしい娘エファと出会い、二人はおたがいを好きになってしまいます。でもエファは、明日おこなわれる「歌くらべ」で優勝した人と結婚することになっていました。ヴァルターは徒弟のダフィットから、「歌くらべ」に出るマイスタージンガー(歌の親方)になるための試験のことを聞き、自分も試験を受けようと考えます。そこに入ってきたのは金細工師のポークナー(エファのお父さん)と、市の書記官ベックメッサー。2人ともマイスターです。ヴァルターがポークナーに、マイスタージンガーになりたいと頼むと、集まってきたほかのマイスターたちに紹介されます。ポークナーは、「歌くらべ」で優勝した者には財産ぜんぶと娘のエファを与えると発表します。そしてヴァルターの試験がはじまりました。自分も「歌くらべ」に出るつもりだった、いじわるな性格のベックメッサーが記録係です。もちろん彼はヴァルターが落ちればいいと思って文句ばかり。そのせいもあってヴァルターは歌の試験に失敗します。でも靴屋の親方ハンス・ザックスだけは、ヴァルターの歌のすばらしさに感動するのです。

エファはヴァルターの試験がダメだったことを聞いてがっかり。ザックスが仕事場でヴァルターの歌を思い出してうっとりしていると、エファがあらわれて、それとなく自分のなやみを打ち明けようしますが、ザックスは知らんぷり。エファは怒って出ていきました。すると道で出会ったヴァルターに、もうマイスタージンガーになれないのだから、二人で町を逃げ出そうと誘われます。その会話を聞いたザックスは、二人が逃げないように明かりをつけてじゃまします。エファの家では乳母のマグダレーネがエファの身代わりとなって窓辺に立っていましたが、ベックメッサーがそこにあらわれて、エファと勘違いして窓の下で歌を聞かせます。ザックスは仕事道具を外に持ちだして、ベックメッサーの歌もじゃまします。あたまにきたベックメッサーのわめき声を聞いて、ダフィットが出てくると、何とベックメッサーが自分の恋人マグダレーネに歌を聞かせているではありませんか！ ダフィットは怒ってベックメッサーに殴りかかります。それを聞きつけてまた大勢の人が出てきて、とんでもない大さわぎになってしまいました。木かげに隠れていたヴァルターとエファは逃げ出そうとしますが、そこをザックスがつかまえて、ヴァルターを自分の家に、エファを彼女の家に帰します。

つぎの朝、いよいよ「歌くらべ」の日です。ヴァルターが起きてきて、すばらしい夢を見たというので、ザックスはその夢を「歌くらべ」で歌うように言います。ヴァルターに歌わせながら、ザックスが歌の規則を教えていくと、ヴァルターもだんだんコツをつかんできました。二人が部屋を出ていくと、そこにあらわれたのはベックメッサー。歌の書かれた紙を見つけて、戻ってきたザックスにひどい言葉をなげつけますが、ザックスがその紙をあげると言うと、ころっと態度を変えて出ていきました。そこへウェディングドレスを着

たエファ、やがてヴァルターもあらわれます。輝くようなしあわせにつつまれた二人。ザックスは、ヴァルターのつくった歌に敬意をはらって、その歌に名まえをつけるのでした。

いざ「歌くらべ」の会場へ！ いろんな人々が集まってきます。そしてマイスターたちの行進！ いよいよ「歌くらべ」のはじまりです。いちばん最初は、ベックメッサーです。まだ歌をおぼえてないので、どうにもとんちんかんなひどい歌。聞いていた人々はみなバカにして笑い出しました。ベックメッサーはカンカンになって、この歌はザックスが作ったものだと言います。そこでザックスは、これは本当はうつくしい歌なのだと、この歌をつくったヴァルターをみなに紹介します(すべてはザックスの計画通りだったのです)。ヴァルターは同じ歌を見事に歌いきって、人びとは感動します。彼こそエファと結婚するのにふさわしいマイスターだと、みな口々に言います。エファはヴァルターの頭に優勝の冠をのせようとしませんが、マイスターになるのはいやだとヴァルターは断ってしまいます。そこでザックスは、マイスターの芸術、つまりドイツの芸術のすばらしさを、ヴァルターに教え聞かせます。エファは冠を今度はザックスの頭にのせ、みながザックスをほめ讃えて、オペラは終わります。